

## 海洋気象学会 臨時理事会・臨時総会報告

海洋気象学会の臨時理事会が、11月20日(木)午前10時45分から神戸市の神戸市教育会館404会議室において開催されました。6月の総会において具体的な課題や手順を整理したうえで検討することとなった、今後の学会運営についての財政見通しをふまえた活動方針の提案について、理事長の進行により審議されました。

審議の結果、今後の学会活動について、従前の活動は2014年度までとし、2015年度末をもって活動を終了(解散)することが承認され、その内容を総会へ諮ることが決議されました。主な議論は下記のとおりです。

- ・2015年度末をもって解散することとし、2016～2017年度を整理期間とする。ただし、2015年度以降の運営については、2014年度末の繰越金で賄える最低限の規模とする。
- ・役員任期を3年に延長し、現行役員において2015年度末の終了までの運営を行う。また、2016年度以降の整理業務については、理事長が長の組織を作り、これにあたる。
- ・解散にあたり、説明及び周知を行うとともに、これまでの学会活動の経緯をまとめる。
- ・業務委託等の経費を切り詰め、2016～2017年度の運営必要経費を十分確保する。

引き続き午後3時から、神戸市の神戸市教育会館404会議室において臨時総会が催され、会長挨拶のあと、理事会で承認され提出された議事について、矢野会員(気象庁)の議長のもと審議が行われました。

その結果、財政見通しについて一層厳しい見積りとするとともに、活動終了の承認に伴う会則の改正、投稿の受付停止等について修正を加え、今後の学会運営の方針と具体的な計画が承認されました。

### [理事会・総会資料(総会議決版)]

#### 1. 6月定例総会での承認事項

今後の学会運営については、会費の値上げや活動の縮小などの対処策ではなく、従前どおりの活動は2014年度までとし、2015年度末をもって活動を整理、終了(解散)する方向で検討を行う。具体的な課題、手順を整理し、2014年度後半に理事会・総会において審議する。

#### 2. 活動の整理、終了に関する計画

基本方針・2015年度末をもって解散する。

- ・2016年度から2年間に業務の整理を行う。
- ・2015年度の活動及びその後のHP維持は2014年度末の繰越金で賄える最低限の規模とどめ、2015年度の会費は徴収しない。
- ・2016年度以降、欠損が生ずる見込みとなった時点で活動を打ち切る。一方、2017年度末において学会資産が残った場合は公的団体に寄付する

運営体制・現在の役員の任期を延長し2015年度末までとする（空席は原則未補充）。

会則第11条を改正する。

（現行）役員は会員の互選によって選出し、その任期を2年とする。理事長は理事の互選とする。役員に欠員を生じた場合は、理事長が後任役員を任命することができる。後任役員の任期は、前任者の残り期間とする。

（改正）役員は会員の互選によって選出し、その任期を3年とする。理事長は理事の互選とする。役員に欠員を生じた場合は、理事長が後任役員を任命することができる。後任役員の任期は、前任者の残り期間とする。

- ・事務局業務の委託は、内容は縮小し、2015年度は継続する。
- ・2016年度以降の業務対応は、5名程度の委員からなる運営整理委員会により行う。  
なお、委員長は理事長があたり、委員は理事を中心に委員長が選任する。

各事業 ・機関誌の印刷発行は2014年度で終了する。

但し「海と空」で年度内に受理できなかった場合は、投稿者了解の下、2015年度にWeb版を発行して対処する。

なお、総会の決議を受け、投稿の受付は停止する。

- ・学会HPは、活動終了の周知、論文の電子公開のため、2016、2017年度の2年間は維持する。
- ・2015年度は、例会、シンポジウム、船舶気象懇談会は実施しない。  
なお、船舶気象懇談会については2015年度以降の代替となる行事への移行を、学会から日本船長協会、大阪管区气象台に提案し調整する。
- ・2015年度は、理事会をメール開催とし、総会は開催しない。
- ・解散にあたり、説明および周知を機関誌最終号に掲載する。
- ・これまでの学会活動の経緯をまとめ、機関誌もしくはWEBに掲載する。
- ・著作物の保全、電子公開  
国会図書館との調整は2014年度中に終え、2015年度には完了させる。  
作業の現状は以下の通り

「海と空」

1巻 - 75巻 原本電子化で国会図書館から一般公開（2014年度中）

現在、個人情報に係わる削除部分の点検中

76巻 - 89巻 1号 WEB収集で国会図書館から一般公開

学会からの承認回答に向け作業中

国会図書館・気象庁図書館が全巻所蔵の旨、90巻3号で告知

「海の気象」

総目次及びレビュー記事を「海の気象」60巻2、3号に掲載

1巻 - 60巻 原本電子化により国会図書館で内部公開済み

国会図書館・気象庁図書館が全巻所蔵の旨、60巻3号で告知

気象庁図書館、5巻、6巻を寄贈する必要あり

「瀬戸内海の気象と海象」

国会図書館に納本するとともに、Web収集対象かを確認し、国会図書館での電子化を図る（気象庁図書館には所蔵されている）。

3．財政見通し

- ・機関誌、旅費が予算を超過し、会費未回収等も勘案し、現時点では28万円程度の赤字見通し。従って、14年度末の繰越金を当初予算の76万円ではなく48万円と想定。
- ・15年度事務局業務委託 16万円  
（問合せ等窓口対応13万円、HP契約運用3万円）
- ・15年度通信費 4万円  
（2015年度末に1回（活動停止周知（部外含む）、併せて2014年度決算、監査報告））
- ・16-17年度 事業費及び予備費 28万円  
（HP契約 6万円（3万円×2年）ほか）

4．学会が所持する物品

事務局で保管している物品（機関誌等印刷物）は14年度末で処分する。